

2023年7月6日

日本銀行大阪支店

関西金融経済動向

【全体感】

関西の景気は、一部に弱めの動きがみられるものの、持ち直している。

輸出は、横ばい圏内で推移している。設備投資は、増加している。個人消費は、緩やかに増加している。住宅投資は、緩やかに増加している。公共投資は、増加している。こうした中で、生産は、横ばい圏内で推移している。雇用・所得環境をみると、緩やかに改善している。この間、企業の業況感は、総じて改善している。

先行きについては、海外の経済・金融の動向、ウクライナ情勢、原材料価格や消費者物価の上昇、賃上げの動向や人手不足等が、当地の経済金融情勢に与える影響などを注視していく必要がある。

【各 論】

1. 需要項目別動向

公共投資は、増加している。

輸出は、横ばい圏内で推移している。

設備投資は、増加している。

個人消費は、緩やかに増加している。

百貨店販売額、スーパー等販売額、外食売上高は、緩やかに増加している。乗用車販売は、供給制約の影響が和らぐもとで、緩やかに増加している。旅行取扱額は、持ち直している。家電販売額は、横ばい圏内で推移している。

住宅投資は、緩やかに増加している。

2. 生産

生産（鉱工業生産）は、横ばい圏内で推移している。

内訳をみると、海外経済の回復ペースが鈍化するもとで、電子部品・デバイスなど一部に弱めの動きがみられているものの、生産用機械や電気・情報通信機械などは堅調に推移している。

3. 雇用・所得動向

雇用・所得環境をみると、緩やかに改善している。

4. 物価

消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、3%台前半のプラスとなっている。

5. 企業倒産

企業倒産は、総じて低水準で推移しているものの、幾分増加している。

6. 金融情勢

預金残高は、個人預金の増加を背景に、前年比1%程度のプラスとなっている。

貸出残高は、住宅ローンや設備資金需要のほか、経済活動の改善や原材料高に伴う運転資金需要を背景に、前年を上回っている。

預金金利は、低水準で推移している。

貸出金利は、横ばい圏内で推移している。

以 上